多様化する社会福祉士養成教育の現状と課題
－専門学校における社会人学生及び教員へのインタビューを通して－

日本福祉教育専門学校　　金井　直子（6301）

キーワード　社会福祉士養成教育、社会人学生、多様性

１．研 究 目 的

これまで社会福祉士資格を取得しょうとする人達は、社会福祉系の大学の卒業生か、社会福祉実践を積んできた人達が大多数であった。しかし最近では（専門学校の教員として社会福祉士養成教育に携わっているなかで）大学卒業後の社会人経験はあるが社会福祉実践を持たないなど多様な人達が増えてきていることを実感している。このように社会福祉士養成教育を行う専門学校では高校卒業後に入学した学生、社会人経験はあるが社会福祉実践経験がない学生、定年退職後に入学した学生など、多様な人達が学んでいる。本研究では、社会福祉実践経験を持たず入学した社会人学生が何故、社会福祉士資格取得を目指すのか、どのような将来の進路を考えているのかなどを明らかにし、多様化する資格取得者に対する今後の養成教育のあり方を考察していく。

２．研究の視点および方法

（１）研究の視点

社会人学生に対する社会福祉士養成教育の取組みついて明らかにすることである。

（２）研究の方法

文献調査の他、社会福祉士養成校である本校で社会福祉実践経験を持たずに学ぶ社会人学生（昼間通学クラス）及び社会人学生の授業を担当する教員に対して行った半構造化面接により得られた情報を整理・分析し考察を加えた。

尚、質問項目については、以下の通りである。

社会人学生に対しては、①社会福祉士資格を知った経緯②資格取得を目指す理由、②将来の目標、③社会福祉士会の認知度等である。

また教員に対しては①社会人学生に養成教育を行ううえで心がけていること、②１年間の養成教育のなかで特に伝えたいこと、③社会人学生が資格取得をした後に社会福祉実践をしていくうえでの課題等である。

３．倫理的配慮

インタビューについては、学校及び教員そして社会人学生から学会にて発表することの了解を得た。また内容については、本研究に関することのみであり、その結果については個人が特定されないように配慮した。

４．研究結果

社会福祉士資格取得に至るまでの彼らの社会人経験に基づいた視点は、福祉サービスを利用する当事者性やクライエントの多様性を理解することに役立っている。

また、このような社会人学生のポジテイブな面を促進していくためには、１年間という短い養成期間のなかでの授業における学生同士の活発な意見交換や経験の交流が、質の高い充実した学びを深めていくためには必要であることがわかった。そしてそれらを促進していくためには、社会福祉実践経験のある教員が行う実践事例研究など、社会人学生の特徴に合わせた取組みが欠かせないことがわかった。

そしてこれらの取組みは、日本社会福祉士会の生涯研修制度のあり方を考える際の一助となるといえる。

尚、社会人学生が資格取得後にどのように社会福祉実践経験を積み、社会福祉士としての学びを続けているのかという課題も明らかにする必要があり、今後も継続して研究していきたい。